

# 教 育 研 究 業 績 書

平成 29 年 11 月 15 日

氏 名 宮 田 淳 嗣

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
畜産学・獣医学	動物看護、ストレス軽減、グルーミングの効果	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
・少人数グループ制の指導の導入	平成 23 年 4 月～ 現在に至る	<p>ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科の専門科目「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」は、イヌやネコへの基礎的なグルーミングの技術を学ぶものである。学生の大多数はグルーミングの経験がなく、動物を飼育した経験のない学生も少なくない。数少ない生体を扱う実習として、事故のリスクを小さくしつつ教育効果の高い指導を行う必要がある。少人数グループ制のメリットとして、以下のことがあげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフが限られた頭数のみのイヌを見ることで、危険な行為に気付きやすくなる。</li> <li>・技術の習得が遅れている学生を見つけやすくなる。</li> <li>・常に同じスタッフが指導することで指導に一貫性が生まれ、学生は理解がしやすい。</li> <li>・学生の個性に合わせた指導がしやすい。</li> </ul>
・小松原女子高校総合学習での講義	平成 24 年 2 月	<p>小松原女子高校の総合学習の一環として、「イヌに合わせたグルーミング」というタイトルで講義を行った。小松原女子高校では、イヌのグルーミングを授業に取り入れており、生徒にも一定の知識があった。ただグルーミングの手技について講義を行うだけでなく、「なぜグルーミングを行うのか」、または「個体に合わせてどのようにグルーミングを行うのか」といった部分に焦点を当て、「美容」ではなく「動物看護」のグルーミングを意識して講義を行った。</p>
・スタッフの持ち場のローテーション	平成 24 年 4 月～ 現在に至る	<p>「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」では、イヌや学生に危険があった際に見過ごすことがないよう、実習室の各所にスタッフを配置している。過去はスタッフの配置が固定されていることが多かったが、指導に一貫性がある反面、多様性がないという問題があった。グルーミングマニュアルを制定したことにより、指導内容がスタッフにより大幅に異なるということがなくなったため、スタッフの持ち場をローテーションすることを提案した。メリットとして以下のことがあげられる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前教育での講義</li> </ul>	<p>平成 24 年 12 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な持ち場を経験することにより、スタッフの視野が広がり、指導力が上がる。</li> <li>・指導の表現に多様性が生まれる。</li> <li>・年次の若いスタッフの持ち場をサポートしやすくなる。</li> </ul> <p>平成 25 年度ヤマザキ学園大学入学予定者を対象に行われた「入学前教育」において、グルーミングの作業と目的について、作業を見せながら説明した。グルーミングという言葉聞くこと自体が初めてな参加者も多く、なるべく簡潔な表現で説明することを意識した。また、同時に専門性や学術的な部分に興味を持ってもらうため、日常で役に立つ専門知識を説明した。講義の合間には犬と触れ合う時間を設け、緊張を解くと同時に講義に興味を引くよう努めた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席のとり方の効率化</li> </ul>	<p>平成 26 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習」では、学生を一列に並ばせ、ひとりひとり出席を取ると同時に担当するモデル犬を割り振るという形式をとっていたが、最後の学生の出席を取り終えるのに 20 分以上を要していた。平成 26 年度より、事前に担当するモデル犬を割り振り掲示しておき、出席した学生は掲示にチェックを入れるという形式を提案し導入したところ、出席確認に要する時間が大幅に短縮された。出席確認に要する時間が短縮されたことにより、指導にかかる時間を長くすることができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き込み式のテキストの導入</li> </ul>	<p>平成 27 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習」では、グルーミングのテキスト「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」（以下マニュアルとする）を作成し、配布している。改訂ごとに内容が充実する反面、ページ数や文字数が多くなり、マニュアルを見ながら実習を行うことが困難になっていた。そこで、メインのマニュアルとともに、余白の多い写真中心のマニュアルを同時に配布し、学生が自分に必要な部分だけ記入して実習に持ち込めるようにすることを提案した。平成 27 年度より導入に至り、学生がマニュアルを効率良く使用することができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習へのタブレット教材の導入</li> </ul>	<p>平成 28 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習」において、個別に指導が必要な際に効果的な指導ができるよう、タブレット端末にて動画を視聴させながらの解説を試みた。視覚からの情報があることで、動画を使用しない場合と比較して学生の理解が向上した。ま</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多種の模式図を使用しての指導</li> <li>・ エピソード記憶を利用した指導</li> </ul>	<p>平成 29 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 29 年 11 月～ 現在に至る</p>	<p>た、実際にイヌを扱う前に動画にて指導することで、学生の不慣れな作業に起因するイヌへの負担を軽減することができた。</p> <p>「コンパニオンアニマルケア論」において、皮膚の構造や被毛の構造を教授する際に、多種の模式図を用いて説明を行った。1 種類の模式図あるいは写真だけを用いた学習では記憶が定着しづらいが、多種の図を使用することで学生の記憶が定着し、定期試験の結果も良好であった。また、簡略化された模式図を読み取る能力を向上させることができた。</p> <p>「イヌの特性論」において、イヌの能力を講義するにあたり、可聴領域や音源の方位の特定、リズム感、聴力に関する簡易的な実験を行い、イヌの聴覚を体感的に解説した。文字や映像のみでの解説と比較し、学生からの評判も良好であった。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL DVD</li> <li>・ THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL (改訂第 2 版)</li> <li>・ THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL MAIN VOLUME (改訂第 3 版)</li> </ul>	<p>平成 24 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 25 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 27 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習」において、平成 22 年度よりグルーミングのテキスト「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」（以下「マニュアル」とする。）を使用して指導を行っているが、動きのある部分においては、静止画だけでは十分に理解することが困難であった。DVD を作成し、教材に加えることで、学生の自己学習の質を上げることができた。</p> <p>ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習」において、平成 22 年度よりグルーミングのテキストマニュアルを使用して指導を行っているが、指導方法の改良や、より詳細な内容を盛り込む必要性が発生したため、大幅な改訂を行った。手技の詳細な部分まで記述されているため、学生の自己学習の質を上げることができた。</p> <p>指導方法の改良や、より詳細な内容を盛り込む必要性が発生したため、グルーミングのテキストマニュアルの 2 度目の大幅な改訂を行った。平成 22 年度より継続して改訂を行っているため、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習」に即した内容となると同時に、学生にとって理解しやすい教材となった。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL SEPARATE VOLUME</li> <li>・ 解剖生理学実習における骨格標本</li> </ul>	<p>平成 27 年 4 月～ 現在に至る</p> <p>平成 27 年 11 月～ 現在に至る</p>	<p>グルーミングのテキストマニュアルは改訂ごとに内容が充実する反面、ページ数や文字数が多くなり、マニュアルを見ながら実習を行うことが困難になっていた。そこで、余白が多く写真が中心の本著を作成し、同時に配布した。学生が自分に必要な部分だけ記入して実習に持ち込めるようになり、焦点を絞った指導を受けることができるようになった。</p> <p>ヤマザキ学園大学の「解剖生理学実習」では、内臓の説明においてイヌの胸腔を開いた全身標本を使用しているが、同じ標本を冷凍保存して何年も使用しているため、古い標本は劣化が激しく、臓器の説明には適さなくなった。そこで、劣化した標本の臓器および筋肉を除去し、骨格を残すことで、骨格の授業に使用できるようになった。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生による授業評価アンケート</li> <li>・ 学生による授業評価アンケート</li> <li>・ 学生による授業評価アンケート</li> </ul>	<p>平成 28 年 9 月</p> <p>平成 29 年 3 月</p> <p>平成 29 年 9 月</p>	<p>担当科目の「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」において、全ての評価項目について、科目平均が全体平均を大きく上回った。授業への満足度は「充分満足している」と「ほぼ満足している」の回答で 90%を超え、特定のクラスにおいては 100%であった。</p> <p>担当科目の「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」において、全ての評価項目について、科目平均が全体平均を大きく上回った。授業への満足度は「充分満足している」と「ほぼ満足している」の回答で 90%を超え、特定のクラスにおいては 100%であった。</p> <p>担当科目の「コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習」、「コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習」において、全ての評価項目について、科目平均が全体平均を大きく上回った。授業への満足度は「充分満足している」と「ほぼ満足している」の回答で 90%を超え、特定のクラスにおいては 100%であった。「コンパニオンアニマルケア論」においても、全ての評価項目について、科目平均が全体平均を上回った。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項 なし</p>		
<p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 飼い主向けのグルーミングセミナー</li> </ul>	<p>平成 29 年 1 月</p>	<p>ドッグトレーニング施設「いぬわん幼稚園」にて、飼い主向けにグルーミングのセミナーを開催した。講義と実技を交互に行い、飼い主およびイヌの集中力を保つよう心がけた。セミナーは大変</p>

		好評であった。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物取扱主任者</li> <li>・ペット栄養管理士</li> <li>・短期大学士（動物看護学）</li> <li>・アニマル・ヘルス・テクニシャン</li> <li>・ペット・グルーミング・スペシャリスト</li> <li>・コンパニオン・ドッグ・トレーナー</li> <li>・ベタリナリー・テクニシャン</li> <li>・ケアーナイン・リハビリテーション・セラピスト（Basic）</li> <li>・キャット・グルーミング・スペシャリスト</li> <li>・加齢学指導員</li> <li>・認定動物看護師</li> <li>・学士（動物看護学）</li> </ul>		<p>ヤマザキ動物看護短期大学動物看護学科</p> <p>ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科</p>
<b>2 特許等</b> なし		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども体験塾</li> </ul>	平成 22 年 12 月～現在に至る	八王子市在住の小学生を対象に行われる体験イベントにおいて、グルーミング体験を担当した。子どもが楽しく安全に学ぶ体験をテーマに企画運営した。企画は大変好評であり、グルーミング体験は毎年開催されている。
<b>4 その他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究委員会</li> <li>・図書委員会</li> <li>・図書委員会 紀要編集部会</li> <li>・動物病院実習委員会</li> <li>・入学試験委員会 学生募集部会</li> </ul>	<p>平成 28 年 4 月～現在に至る</p> <p>平成 29 年 4 月～現在に至る</p> <p>平成 29 年 4 月～現在に至る</p> <p>平成 29 年 4 月～現在に至る</p> <p>平成 29 年 4 月～現在に至る</p>	<p>委員を務め、学内研究に関する規定、研究備品の整備、研究倫理等について審議する。</p> <p>委員を務め、図書館の運営、蔵書の管理、学内紙の発行等について審議する。</p> <p>委員を務め、学内の紀要発行に関して審議する。</p> <p>委員を務め、動物病院実習の実習先の受け入れ、予備実習の運営等について審議する。</p> <p>委員を務め、学生募集イベントの運営等について審議する。</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL (完成されたイヌの手入れ 基本技術の手引き) (改訂第2版) (再掲)	共著	平成25年4月	株式会社教育アシストセンター	<p>イヌのグルーミングの手技について記載された著書。随時ページの追加や削除を可能にするため、製本はせず、ルーズリーフに印刷した状態でまとめられている。グルーミングに関わるヒトとイヌ双方の安全確保を最優先とし、そこから応用へと波及できる要素を兼ね備えた基礎技術の解説を中心としている。また、細かいニュアンスを正確に短時間で理解できるように、写真や図を多く使用している。学んだことを記入してオリジナルのテキストを完成させることを目的としており、余白を多く確保している。担当した部分に関してページ数で特定することはできないが、写真の撮影から文章の作成、レイアウトの編集まで全般的に行った。</p> <p>B5判 全200頁            編者：土屋恵美、嶋崎加奈恵            共著者：福山貴昭、青木道代、土屋恵美、嶋崎加奈恵、小栗侑子、實本桃子、石野淳嗣、庄司彩、丸山瑞絵</p>
(学術論文) 1 計測から見たイヌ体躯構成の法則性 (専攻科修了論文)	単著	平成20年1月	ヤマザキ動物看護短期大学	<p>今日のイヌは400種を超えるとも言われる品種が存在し、人間の生活に合わせた長期にわたる選択交配の歴史がうかがえる。しかし、特徴的な個体を作成、維持することは難しく、近親交配を繰り返すことにより特徴を維持しているのが現実である。特徴的な個体を維持することが難しい理由は、イヌの体躯構成にはある程度の法則があるからだ。そこで著者は計37頭のイヌにおいて体高、体長、頭長、頭蓋幅、頸長、肩長、胸深、胸囲、寛骨長、飛節高、尾長の計11ヶ所を計測し、相関、比率、比率の相関をとることで、イヌの体躯構成の法則を調べた。</p> <p>その結果、体躯構成にはある程度の法則性が見られた。各部位の相関係数からは、各部位の比較すべてにおいて高い数値が得られたが、頭蓋幅においては、尾長との相関を除き他部位よりそれぞれ相関が弱かった。</p> <p>その結果、体躯構成にはある程度の法則性が見られた。各部位の相関係数からは、各部位の比較すべてにおいて高い数値が得られたが、頭蓋幅においては、尾</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 ブラッシングがイヌ体臭に及ぼす影響	共著	平成22年3月	「ヤマザキ動物看護短期大学雑誌」第2号 p.111～p.113	<p>長との相関を除き他部位よりそれぞれ相関が弱かった。各部位の比率からは、比較的小さな分散値が得られ、各部位の比率にある程度の一定性があることを示唆した。また、体高と体長は、1:1に近いもの、体長が体高を大きく上回るものは見られたが、体高が体長を大きく上回ることはなかった。体高より体長が長い、俗に言われる短肢長胴タイプは、他の部位との比率から考えると、体高のみが小さくなっていることから、主に肢が短くされたものである。比率の相関からは、各部位の変化率の違いがわかった。変化率を大きいものから並べると、尾長&gt;&gt;体高&gt;&gt;胸深&gt;頭長・肩長&gt;頸長・寛骨長・飛節高&gt;胸囲&gt;体長&gt;&gt;頭蓋幅という結果となった。この結果は、家畜化以前の自然選択及び家畜化以降の人間の手による選択繁殖の歴史を示唆した。</p> <p>イヌの衛生面確保のための実践的作業の一つであるブラッシングは、専門的な設備や技術の必要性もなく、飼育者が短時間で実施可能な作業である。このブラッシングが、イヌの衛生面に及ぼす影響について検討した。本研究はイヌの被毛の付着物を除去することにより体臭も減少すると予測をたて、ブラッシングによるイヌの体臭の変化を検証した。また、ブラッシング時の水分噴霧の有無により効果に違いが出るか検証した。結果は、水分噴霧の有無に関わらず、ブラッシングはイヌの体臭の減少に効果を示さなかった。イヌの体臭は被毛の付着物に起因するものではなく、皮膚への付着物に起因する可能性が高いことが示唆された。主に実験の計画から実施に渡り全般的に携わった。</p> <p>共著者：福山貴昭、青木道代、秋山恵美、嶋崎加奈恵、小栗侑子、實本桃子、<u>石野淳嗣</u></p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
3 身体測定から見るウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアの日本における形態的傾向	共 著	平成24年3月	「ヤマザキ学園大学・ヤマザキ動物看護短期大学雑誌」第2号 p.81～p.83	本調査は、ウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアの犬種標準書が数字により規定している部位である体高と尾の長さの2つを取り上げ、日本国内で飼育されているウェスト・ハイランド・ホワイト・テリア147頭を測定。結果を犬種標準書に明文化されている形態と比較し、日本での形態的傾向を把握する目的で実施した。結果として、体高の平均は犬種標準に定められた理想体高（約28cm）に近い28.5cmであった。体高が規定から10%以上外れるイヌは全体の12.9%（19頭）のみであり、日本においてウェスト・ハイランド・ホワイト・テリアの体高は原産国イギリスの定める規定を維持できていることが示唆された。尾の長さは平均で15.8cmであった。犬種標準に定められた規定（12.5cm～15cm）から外れるイヌが全体の55.1%（81頭）であり、そのうち80頭は規定より長すぎる尾であった。主に実験の計画から実施に渡り全般的に携わった。 共著者：福山貴昭、土屋恵美、嶋崎加奈恵、小栗侑子、井上絢子、石野淳嗣、庄司彩
4 紫外可視分光光度計を用いた動物被毛、羽毛の簡易吸光度分析（査読付）	共 著	平成27年1月	「生物試料分析」第38巻第2号 p.139～p.145	紫外可視分光光度計を用いて、イヌやネコ被毛や鳥羽毛の光遮蔽や吸収波長に関する分析を行った。特に被毛や羽毛の乾式での吸光度分析のために、キューベットに簡単な加工を施し、反射光簡易吸光度分析法を考案し、実施した。これらの分析の結果、イヌやネコ被毛の光遮蔽能は、被毛密度が高いほど高くなることが明らかとなった。また、ヒト、イヌ被毛やカラス羽毛にはユーメラニンやフェオメラニンと一致する吸収極大が認められ、ネコ被毛には、380～400nm付近にイヌのフェオメラニンとは異なる吸収極大が認められた。インコ羽毛には380～400nm付近にシッタコフルビンと一致する吸収極大が認められ、ハトやカラス羽毛にも微量のシッタコフルビンが含まれる可能性が示唆された。主に実験の計画から実施に渡り全般的に携わった。 共著者：岡崎登志夫、福山貴昭、石野淳嗣、堀井隆行、川添敏弘



研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5 イヌにおける腋下温測定の有用性の検討	共著	平成29年1月	「日本動物看護学会誌 Veterinary Nursing」 Vol.21 No.2 p.21～p.25	直腸温測定に代わるイヌに負担の少ない体温の測定法として、腋下温の測定の方法を検討した報告がみられるが、十分な検討がなされていないため、本研究で200頭のイヌの直腸温と腋下温の相関を調べ、改めて腋下温測定が直腸温測定の代替法となり得るか検討した。直腸温と腋下温は同時に測定し、呼吸数と脈拍数も同時に測定した。その他情報として、品種、被毛の長さ、腋下部の被毛の色、年齢、性別、体重、BCSを記録した。結果として、腋下温と直腸温には明らかな正の一次相関が認められた。回帰直線から、イヌの直腸温の正常値である37.5℃～39.0℃の範囲では、いかなる条件を抽出しても腋下温に0.15℃～0.1℃の範囲の値を加えると直腸温に相当することがわかった。以上より、腋下温測定は直腸温測定の代替法となり得ることが示唆された。実験の計画から実施、統計分析、論文執筆に渡り全般的に行った。 共著者：宮田淳嗣、今村伸一郎
(その他) 「学会発表（口頭）」 1 ブラッシング時の犬の被毛への水分噴霧がおよぼす被毛微細表面構造と脱毛量への影響	—	平成21年10月	日本身体障害者補助犬学会第3回学術大会（於ヤマザキ動物看護短期大学）	ブラッシング時にイヌの被毛に水分噴霧する効果を検証する目的で、走査型電子顕微鏡を使用して被毛付着物除去効果を観察するとともに、ブラッシングによる脱毛量を調査した。ラブラドル・レトリバー（2頭）からブラッシング実施前の被毛、ラバーブラシを使用してブラッシングした区分に生え残る被毛、同ブラシを使用し水分噴霧した後ブラッシングした区分に生え残る被毛の3つのパターンの被毛を各イヌから採取し、被毛付着物残留の程度を走査型電子顕微鏡で観察した。さらにラブラドル・レトリバー（4頭）を用いて各イヌの尾を左右に分け、左側を水分噴霧なし、右側を水分噴霧ありの状態で行った。結果、ブラッシングにより除去された被毛を左右分けて採取した。その結果、ブラッシング時に水分噴霧することにより被毛付着物除去効果の向上、ブラッシングにより除去される被毛量の増加が認められた。イヌ被毛に水分噴霧することでブラッシング効果が高めることが確認された。主に実験の計画から実施に渡り全般的に担当した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 高濃度人工炭酸泉の全身シャワーによるイヌ毛包炎変化観察	—	平成24年7月	日本動物看護学会第21回大会（於ヤマザキ学園大学）	<p>共同発表者：福山貴昭、山崎薫、二宮博義、青木道代、秋山恵美、嶋崎加奈恵、小栗侑子、實本桃子、<u>石野淳嗣</u></p> <p>高濃度人工炭酸泉の人に対する効能は、皮膚血流量の増加を中心に温泉療法や美容業界等で知られている。しかし日本国内でイヌに対する研究報告はなく、本研究は炭酸泉のもつ皮膚血流量増加効果、及び pH4.6～5.0 の特性に注目し、毛包炎に罹患したイヌ皮膚への影響を観察し、炭酸泉のイヌへの影響を知る目的で実施された。実験には毛包炎に罹患した7歳のワイヤー・ヘアード・フォックス・テリア（♀）1頭を用いた。全身被毛を電気クリッパーにより2mmにカットした後、高濃度炭酸泉シャワーを15分間全身に散布した。この工程を2～3日置きに合計10回実施し、効果を検証した。獣医師1名および動物看護師有資格者8名により、皮膚疾患改善が認められた。主に実験の計画から実施、データの解析や発表資料の作成に渡り全般的担当した。</p> <p>共同発表者：福山貴昭、土屋恵美、嶋崎加奈恵、小栗侑子、井上絢子、<u>石野淳嗣</u>、庄司彩、丸山瑞絵</p>
「学会発表（ポスター）」 1 イヌにおける直腸温と腋下温の相関関係	—	平成27年10月	第5回動物看護大会（於東京秋葉原AP秋葉）	<p>直腸温の測定時に嫌悪反応を示すイヌは多く、少なからず負担がかかっていると考えられる。直腸温測定に代わるイヌに負担の少ない体温の測定法として、腋下温の測定の方法を検討した報告がみられるが、十分な検討がなされていないため、本研究で改めて直腸温との相関からその正確性を調べた。方法としては直腸温と同時に腋下温を測定し、イヌの状態を把握するために呼吸数と脈拍数を同時に測定した。その他情報として、品種、被毛の長さ、腋下部の被毛の色、年齢、性別、体重、BCSを記録した。104頭の測定の結果として、腋下温と直腸温には明らかな正の一次相関が認められた。回帰直線から、イヌの直腸温の正常値である37.6℃～39.0℃の範囲では、いかなる条件を抽出しても腋下温に0℃～0.2℃の範囲の値を加えると直腸温に相当することがわかった。以上より、腋下温を測定することは、臨床上十分に有用であると考えられた。</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2 イヌにおける腋下温測定の有用性の検討	—	平成28年2月	日本動物看護学会第38回例会 関西地区第8回例会（於神戸動物環境専門学校）	<p>上記発表の続報であり、154頭の測定結果を元に発表を行った。結果として、腋下温と直腸温には明らかな正の一次相関が認められた。回帰直線から、イヌの直腸温の正常値である37.6℃～39.0℃の範囲では、いかなる条件を抽出しても腋下温に0.13℃前後の範囲の値を加えると直腸温に相当することがわかった。以上より、腋下温を測定することは、临床上十分に有用であると考えられた。一方、特定の年齢や品種、被毛の長さにおいては詳細に検証を続けていく必要があることが示唆された。実験の計画から実施、統計分析、発表資料の作成に渡り全般的に担当した。</p> <p>共同発表者：宮田淳嗣、今村伸一郎</p>
3 イヌにおける直腸温と腋下温の差についての考察	—	平成28年7月	日本動物看護学会第25回大会（於酪農学園大学）	<p>上記発表の続報であり、200頭の測定結果を元に発表を行った。結果として、腋下温と直腸温には明らかな正の一次相関が認められた。回帰直線から、イヌの直腸温の正常値である37.5℃～39.0℃の範囲では、いかなる条件を抽出しても腋下温に0.13℃前後の範囲の値を加えると直腸温に相当することがわかった。以上より、腋下温を測定することは、临床上十分に有用であると考えられた。この結果はヒトと比較してイヌの腋下部が心臓に近く、より深部体温に近い値を得ることができていることが要因であると考えられた。大会発表優秀賞受賞。実験の計画から実施、統計分析、発表資料の作成に渡り全般的に担当した。</p> <p>共同発表者：宮田淳嗣、今村伸一郎</p>
4 トイ・プードルにおける被毛の直径の傾向	—	平成29年7月	日本動物看護学会第26回大会（於ヤマザキ学園大学）	<p>イヌには多種の品種があり、その多様性には被毛が大きな役割を果たしているが、ヒトの毛髪評価方法が確立されている一方でイヌの被毛評価方法は確立されていない。被毛性状を評価する基本的指標のひとつである直径について、トイ・プードル20頭におけるデータを採取し、品種における標準値を算出した。被毛の採取部位は、頭頂、左耳、キ甲、左側腹、下胸、左後肢端、尾とした。結果として、トイ・プードルにおいては、同一個体の同一部位であっても明らかに太い被毛と細い被毛が存在した。実験の計画から実施、統計分析、発表資料の作成に渡り全般的に担当した。</p> <p>共同発表者：宮田淳嗣、近江俊徳、百田豊</p>

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5 超音波洗浄に除菌洗浄液を併用することの洗浄作用検証－クリッパー替刃表面付着微生物へ及ぼす影響－	－	平成29年7月	日本動物看護学会第26回大会（於ヤマザキ学園大学）	<p>イヌのケアに使用されるグルーミング器具の洗浄に、超音波洗浄機（高周波）と除菌洗浄液を併用することで得られる洗浄効果を検討した。方法としては、同程度使用した替刃4つを1つのセットとし、それぞれ「除菌洗浄液と超音波洗浄を併用」、「除菌洗浄液への浸漬」、「水道水で超音波洗浄機を使用」、「水道水への浸漬」の処置に分けた。その全てより、「洗浄処置前の替刃からの拭き取り」、「洗浄処置後の洗浄懸濁液からの採取」、「洗浄処置後の替刃からの拭き取り」を実施し、それぞれ一般生菌、黄色ブドウ球菌、真菌の培養を行った。結果としては、除菌洗浄液を使用した処置は除菌効果が高く、また超音波洗浄機を併用したほうがその精度が高くなることが示唆された。実験の計画から実施、統計分析、発表資料の校正に渡り全般的に担当した。</p> <p>共同発表者：福山貴昭、宮田淳嗣、山村拓也</p>
6 3Rsに基づくグルーミング教育がモデル犬に及ぼすストレス負荷の実態調査－ヤマザキ学園大学における事例－	－	平成29年7月	日本動物看護学会第26回大会（於ヤマザキ学園大学）	<p>グルーミングは動物看護師に求められる技術のひとつであり、グルーミング実習が重要な教育内容であるが、グルーミング作業はイヌにとって嫌悪刺激になることも多く、教育効果ばかりに目を向けてしまうとイヌへのストレス負荷が大きくなることが懸念される。ヤマザキ学園大学のグルーミング教育においては、教育効果と動物福祉のバランスを検討しながら3Rsに基づいた様々な取り組みが行われている。その取り組みの妥当性を評価することを目的とし、グルーミング実習に伴うモデル犬のストレス負荷について実態調査を行った。方法としては、モデル犬21頭を対象とし、生理的ストレス指標である唾液中コルチゾール濃度を実習前後で比較した。結果として、グルーミング実習前後に唾液中コルチゾール濃度に有意差は認められず、ヤマザキ学園大学の3Rsに基づく教育の取り組みは妥当であると考えられた。担当部分として、主に実験動物の準備、実験環境の整備、検体採取、実習の取り組みに関する情報提供、発表資料の校正等を行った。</p> <p>共同発表者：堀井隆行、守屋里紗、宮田淳嗣、福山貴昭</p>

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
「その他口頭発表」 7 炭酸泉浴（高濃度人工）がイヌに及ぼす影響の検証	—	平成27年7月	平成 26 年度共同研究発表会（於ヤマザキ学園大学）	高濃度人工炭酸泉の効果として、ヒトでは、血管拡張、深部体温上昇、心拍数減少、保温効果が報告されている。動物ではラットでの研究として、深部体温上昇、炭酸泉浴後の深部体温低下（湯冷め）の減少、心拍数減少が報告されており、検証結果は一律ではない。イヌではどのような効果があるか、水道水および炭酸泉それぞれにおいて、入浴前後の熱流束を測定することにより検討した。結果として、一定の条件下で実験を行ったにも関わらず、測定結果は一律ではなかった。また、入浴前後の熱流束の差では、季節によってある程度の法則性が見られた。実験の計画から実施、発表資料の作成に渡り全般的に担当した。 共同発表者：福山貴昭、岡崎登志夫、堀井隆行、 <u>石野淳嗣</u>